

令和7年度
第9回 市民と議会との意見交換会
報告書



伊那市議会

はじめに



第9回市民と議会の意見交換会の開催にあたり、ご多用の中、またお忙しい日常の中からお参加いただきました市民の皆さまに、心より感謝申し上げます。

本意見交換会は、市民の皆さまの声を直接お聴きし、暮らしの中で感じておられる課題や将来への思いを議会活動に活かしていくことを目的として開催しているものです。今回も、地域の現状や日々の生活に根ざした率直なご意見、また伊那市のこれからを見据えた前向きなご提案など、数多くのお話をお聞かせいただきました。

市民の皆さまから寄せられた一つひとつの声には、それぞれの立場や経験に基づく重みがあり、私たち議員にとって改めて気づかされること、考えを深めるきっかけとなることが多くありました。議会が市民の皆さまにとってより身近で、信頼される存在となるためには、こうした直接の対話の積み重ねが何より大切であると、改めて実感しております。

今回いただいたご意見やご提案につきましては、総務文教委員会・社会委員会・経済建設委員会で意見集約し、調査、検討等を経て市長に提言したもの、またその結果を踏まえ議会としての考え、対応についてこの報告書にまとめましたので、市民の皆さまに報告させていただきます。また、意見交換会を通じて見えてきた課題については引き続き、行政とも連携しながら、よりよい伊那市づくりにつなげていきたいと考えております。

結びに、本意見交換会の開催にあたり、ご協力をいただきました関係者の皆さま、そして貴重なお時間を割いていただきましたすべての市民の皆さまに、重ねて御礼申し上げます。今後とも、市民の皆さまの声を大切にし、開かれた議会運営に努めてまいりますので、引き続き伊那市議会へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

伊那市議会議長
田畑 正敏

目次

はじめに	・・・・・・・・	1
目次	・・・・・・・・	3
1 第9回市民と議会との意見交換会の概要	・・・・・・・・	4
(1) 趣旨	・・・・・・・・	4
(2) 開催日時、会場、内容及び参加者数	・・・・・・・・	4
2 主な検討テーマについて	・・・・・・・・	6
3 各会場参加者から出された意見	・・・・・・・・	17
4 アンケート集計表	・・・・・・・・	26

1 第9回市民と議会との意見交換会の概要

(1) 趣旨

市民に開かれた議会を目指した改革の一つとして、市民により身近で、透明性のある議会運営を行うこと、また市民の声の受け皿としてご意見をいただき、意見交換をする中で情報共有をすることが重要と考え、この「市民と議会との意見交換会」を開催しています。また昨年度から、政策サイクルのための重要な機会と捉え、所管事務調査の一環として位置づけ、テーマ設定から政策提言に結び付けることを前提として開催しています。

市民の皆様の声を聴くことを主としたいという思いから、「意見交換会」の形式としています。単純な要望をお聞きするというよりも、市民の皆様との対話の中で生まれるものを大切にしたいと考えています。

伊那市議会全体として開催する会と位置づけ、資料の準備、会場設営、当日の運営などを議員が自ら行っています。

いただいた意見は、伊那市議会として調査、研究、検討に組み込み、必要に応じて市長部局への政策提言等の実施に結び付けていきます。

(2) 開催日時、会場、内容及び参加者数

参加者をグループに分け、ワークショップ形式で行いました。

①地区、会場別意見交換会

地区ほかの市民など、ご希望の方が自由に参加する形式

○令和7年7月3日（木）午後7：00～9：00 参加者数：7名
東春近公民館（春近郷ふれあい館） 総務文教委員会担当
テーマ ・自治会のあり方
 ・防災対策

○令和7年7月4日（金）午後7：00～8：45 参加者数：7名
伊那公民館 社会委員会担当
第1部 楽しく！脳トレレクリエーション
第2部 認知症おしゃべりカフェ

○令和7年7月10日（木）午後7：00～9：00 参加者数：23名
高遠町総合支所 総務文教委員会担当
テーマ ・自治会のあり方
 ・防災対策

○令和7年7月26日（土）午後2：00～4：00 参加者数：3名
防災コミュニティセンター 社会委員会担当
第1部 認知症を知ろう！（座学）・脳トレ体操
第2部 認知症おしゃべりカフェ

②分野別意見交換会

特定分野に係る市民団体や市民に集まっていただき実施する形式

○令和7年5月24日（土）午後7：00～9：00 参加者数：15名
若宮区公民館 経済建設委員会担当
参加者 若宮区の皆様
テーマ 市営住宅の今後のあり方

○令和7年5月31日（土）午前10：00～12：00 参加者数：29名
大萱区公民館 経済建設委員会担当
参加者 大萱区の皆様
テーマ 市営住宅の今後のあり方

○令和7年7月3日（木）午前10：00～12：00 参加者数：3名
伊那市議会第1委員会室 経済建設委員会担当
参加者 有機米生産者
テーマ 有機米のこれから

③その他分野別意見交換会 ※参考

今回の市民と議会との意見交換会に限らず、実施したもの

○令和7年5月10日（土）午後2：00～3：30 参加者数：17名
防災コミュニティセンター 社会委員会担当
参加者 伊那市手をつなぐ育成会
テーマ 知的障がい者と家族の現状

○令和7年10月10日（土）午後3：30～5：00 参加者数：5名
伊那市議会第1委員会室 総務文教委員会担当
参加者 伊那市教育委員
テーマ ・子どもと学校と地域のつながりについて
・これからの大人の学び（生涯学習）について

2 主な検討テーマについて

各会場で出された意見のうち、検討テーマとして取り上げたものは次のとおりです。

※各会場で出された意見は、17ページ以降を参照ください。

番号	検討テーマ	検討結果 ページ
1	自治会組織の簡素化	7
2	自治会役員の成り手不足への対応	9
3	防災（防災意識の向上、避難経路の見直し）	11
4	人口減少と施設の見直し 市営住宅の今後の在り方	13
5	有機米のこれから	16

No	テーマ	処理担当委員会
1	自治会組織の簡素化	総務文教委員会
市民から出された意見		
<p>【主な課題】（活動内容と組織の課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員が複数の役職を兼任するなど、仕事が多い。 ・ 安協の会費や募金などの集金業務が負担となっている。 ・ 市からの連絡が紙媒体だけで、全戸配布や回覧に手間を要している。 <p>【提案・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織や役員の簡素化、仕事内容の軽減が必要。 ・ 引き継ぎ文書をデータ化して保存するなど、業務を効率化してほしい。 ・ 回覧文書の LINE 配信など、デジタル化を進めてほしい。 		
過去の回答状況		
<p>○令和5年12月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化により自治会を統合した事例があり、今後、再編・統合に関する相談があった場合には親身に対応する。 <p>○令和6年9月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル回覧板の検討は行っていない、紙以外の配布方法も研究する。 ・ 自治会のデジタル化については、中央区と美原区が「伊那市協働のまちづくり交付金」を活用して取り組んでおり、周知していく ・ 組織の改革を行政主導で強制することは難しいが、優良事例の情報発信に努める。 ・ 自治会活動への日当を市が負担することは考えていないが、「協働のまちづくり交付金」を活用し、見直しにかかる専門家のアドバイス費用などに充ててほしい <p>○令和7年3月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な自治会運営を支援するため、人口規模や課題の緊急度、課題解決に意欲的な地域を選定し、モデル事業として自治会コーディネーターを配置する。 		
委員会での解釈、検討結果		
<ul style="list-style-type: none"> ①区役員の役職の簡素化や兼職の解消に取り組んでいただきたい。 ②自治会役員の集金や配布業務などの簡素化に取り組んでいただきたい。 ③自治会コーディネーターを他地域へも横展開していただきたい。 		

現状・市の対応（地域創造課）

- ①自治会によって組織や役割分担、運営方法などが異なるため、まずは各自治会において事務や事業の棚卸しを通じた、組織のスリム化を図ることが必要。併せて住民への活動の可視化による、自治会活動に対する理解や啓発を行うことも必要と考える。市としても自治会へ依頼する役員の削減に向けた調整を進めていくが、持続的な自治会運営を行うためには、一過性ではなく、本質を捉えた変革が必要と考える。
- ②・緑の募金や日本赤十字社活動資金の集金については、関係部署とも連携し、負担軽減を図る方法を研究していきたい。
- ・長野県民交通災害共済の加入募集事務は、令和9年度の募集から電子化が始まり、令和10年度からは、区長等への依頼はせずに完全電子化を目指している。
 - ・伊那市安全協会は、各地区で加入費や集金方法を決めており、集金した活動費は、全額各地区の運営に使われている。加入費は強制ではないため、加入しない世帯や、高齢化等の課題が出ているため、各地区の課題に合わせて、市からも改善策を提案している。
 - ・市報等のポスティングは、地区役員の負担が軽減されること、自治会未加入世帯へも配布が可能となること等のメリットがある。一方で、配布を希望されない方、空き家やアパート等の空室への必要のない配布が増える等のデメリットや毎月の市報以外の配布物の扱いも課題も残る。
 - ・市では、市報のデジタル配信も行っているが、情報弱者への配慮など、今後さらに検討が必要である。
- ③まずは長谷地域において、持続的な自治会運営に向けた検証を行う中で、可能な取り組みから他地域へも横展開していく。また、支援員の配置については、長谷地域の効果を検証しながら検討していきたい。

市議会としての考え・対応

- ①自治会役員の担い手不足解消に向け、総論的な支援に留まることなく、事務負担軽減のための事務代行者の登用支援など、各地区の運営実態に即した具体的かつ実効性のある改善策を提示するよう求めていく。
- ②自治会役員の負担となっている集金・配布業務について、ポスティングの活用等による事務の抜本的な簡素化に向け、市として具体的な手立てを講じるよう求めていく。
- ③自治会コーディネーターについては、長谷地域での検証結果を待つだけでなく、早急な増員を図るとともに、他地域への横展開を加速するよう求めていく。

No	テーマ	処理担当委員会
2	自治会役員の成り手不足への対応	総務文教委員会
市民から出された意見		
<p>○主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年に一度役が回ってくるなど、役員の負担が重い。 ・高齢者が多く、役員決めが難しい。 ・民生委員のなり手不足も深刻で、選考に苦勞している。 ・一人暮らしの高齢者が増え、自治会の環境整備作業等が困難になっている。 ・若い世代は仕事で忙しい人が多く、役員を引き受けるのが難しい。 ・マンションやアパートに住む人は自治会に入らないケースが多い。 ・年齢順で役員を決めている。 <p>○提案・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会を合併・統合して規模を大きくしていくことも考えてほしい。 ・自治会コーディネーターの配置や事務職を置いて業務を分担するために、市の支援があると良い。 ・女性や若い世代が参加しやすい仕組みを作る。 ・移住者にも役員を回す必要があるため、自治会の規約を守るよう、市が移住条件に含めてほしい。 		
過去の回答状況		
<p>○令和4年6月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の負担軽減については、安易な出席依頼を控えるよう求めている、民生委員が本来やるべき業務を明確にし、研修などなどを通じて理解を深めてもらうとともに、市や社会福祉協議会ができる限りのサポートを行うことで、負担を軽減し、担い手不足を解消したい。 <p>○令和5年12月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の負担軽減につながる事例を収集し、情報提供していく。 ・自治会の事務処理を軽減するため、選出を一括で行ったりするなどの見直しに取り組んでいる。 ・保健委員の廃止のように、今後も市からの依頼業務の見直しを検討する。 ・移住希望者向けに自治会の情報を提供する「地域の教科書」を作成したり、補助金の交付要件に自治会加入を求めたりするなど、自治会への加入やルールの尊重を周知している。 		

委員会での解釈、検討結果

【地域創造課】

- ①少子高齢化を見据え、市全体としての組織的な検討を進めていただきたい。

【社会福祉課】

- ②民生委員の成り手不足解消については、様々な方法で検討していただきたい。

現状・市の対応（地域創造課・社会福祉課）

- ①担い手不足や若い世代の関わりが希薄となっている現状は、自治会共通の課題であり、持続的な自治会運営を行うためには、本質を捉えた変革も必要であり、若い世代や女性が興味・関心を持ち、関わりたくなるような自治会運営が求められている、一方で、区によって組織や役割分担、運営方法などが異なるため、まずは各自治会において事務や事業の棚卸しを通じた、組織のスリム化を図り、併せて住民への活動の可視化を行っていく必要があると感じている。
市としても、自治会組織の標準モデル等について検討を行っていく予定である。
- ②民生委員の成り手不足については、重要な課題であると捉えている。市としてはこれまでも活動の負担軽減を図る取り組みを進めてきている。次回改選に向けて担当地区の見直し等について検討していきたい。

市議会としての考え・対応

- ①自治会役員の成り手不足解消に向けて、少子高齢化に伴う運営の限界を見据え、各自治会の事務・事業活動の実情を精査した上で、事務代行者の登用支援など、市全体として事務負担軽減に直結する具体的な施策を積極的に検討・実施するよう働きかけていく。
- ②民生委員の成り手不足解消に向けて、活動内容が属人的・地域的差異によって過重となっている実態を把握し、個々の委員に過度な負担が生じないよう、業務内容の標準化を図り、目線を揃えるための「活動の指針」を提示するよう求めている。

No	テーマ	処理担当委員会
3	防災（防災意識の向上、避難経路の見直し）	総務文教委員会
市民から出された意見		
<p>●主な課題</p> <p>◇避難場所までの安全性（アクセス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠小学校や山室の避難場所が遠い、または土砂崩れ地区にあり危険。 ・三峰川など、河川を渡る必要がある避難経路に不安がある。 ・藤沢地区のように、ハザードマップ上安全な場所がない集落がある。 ・高齢者や障害者が安全に避難できる場所や手助けする人が不足している。 <p>◇防災活動と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に対する関心が薄い住民もいる。 ・災害時に交通整理を担う人や、災害ゴミの処理方法が明確ではない。 <p>◇組織体制と訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立集落を想定した訓練が必要。 ・区の役員が頻繁に変わるため、継続的な防災対策が難しい。 ・防災組織に女性の団体を入れてほしい。 ・危機管理課の職員が地域に入り、具体的な話をしてほしい。 <p>●提案・要望</p> <p>◇避難体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が、自助の意識を促してほしい。 ・避難場所を再検討し、安全な場所を確保してほしい。 ・高齢者や障がい者の避難をどうするか、具体的な手立てを考えてほしい。 <p>◇市の関与：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントや出前講座を通じて、一人ひとりの防災意識を高めて欲しい。 ・地域ごとの危険箇所を把握するワークショップを継続してほしい。 ・安全な場所の確保や防災対策について、危機管理課と連携して進めたい。 		
過去の回答状況		
<p>○令和6年9月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対応における自治会の役割の重要であるが、自治会との連携協定を締結する予定はない。 ・防災講座の開催や施設整備補助金などにより自治会での取り組みを支援していく。 <p>○令和7年3月一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉ミルクは県の備蓄目安を既に満たしている。 ・紙おむつの備蓄は目安の3割にとどまっているが、3年間で充足させる予定。 ・液体ミルクは保存期間が短いことから、管理方法を含めて今後検討する。 ・市の備蓄には限界があるため、市民に対し、最低でも3日分の食料や非常持ち出し品の準備を促していく。 ・「災害弱者」を守るため、福祉担当部署や社会福祉協議会で構成する「福祉防災 		

<p>チーム」を発足させ、関係者を対象とした防災研修を継続的に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が自ら企業と協定を結んでいる事例（美篤地区や高遠町の小原区など）があり、防災に関する相談があれば積極的に助言していく。 ・伊那市は長野県市町村災害時相互応援協定において、上伊那ブロックの長として支援調整を行う役割を担っている。 ・親子や若い世代が楽しみながら防災を学ぶイベントや体験活動の場を提供していきたい。 <p>○令和7年度 炊き出しユニット、移動式トイレの導入</p>
--

<p>委員会での解釈、検討結果</p>
<p>①各地区の避難所の場所は、住民の意見を聞いた上で、決定いただきたい。</p> <p>②各地区の自主防災組織及び支え合いマップは、実動可能なものとなるよう手だていただきたい。</p> <p>③防災コーディネーターは、女性を含めて各地区に配置できるよう養成いただきたい。</p>

<p>現状・市の対応（危機管理課）</p>
<p>○避難時に土砂災害警戒区域や浸水想定区域を通過する必要がある場合は、早めの避難行動を行っていただくよう、防災おでかけ講座で周知しております。</p> <p>○地域にある民間事業者施設や個人敷地を避難所として利用する事例もありますので、自主防災組織から相談があれば対応してまいります。</p> <p>○防災おでかけ講座等で、自主防災組織の活動内容や要配慮者支援の対応など抱える課題に対し、伴走支援を行っています。地区により防災活動状況が異なりますが、防災おでかけ講座等で市全体の防災力の底上げを引き続き行っていきます。</p> <p>○令和元年から伊那市地域防災コーディネーター養成講座（初級）を実施しており、今年度まで149名（うち女性27名）に受講されました。災害への対応は自助・共助が重要であることから、本施策を周知し受講者を増やしていきます。</p>

<p>市議会としての考え・対応</p>
<p>①避難所については、特に河川を渡る必要がある東部地区等のリスクを考慮し、指定避難所にこだわらず民間施設や個人敷地も含めた再検討について、市から地元自主防災組織へ相談し、見直しを進めるよう求めていく。</p> <p>②自主防災組織については、役員の交代に伴う形式的なものに留まらないよう、数年間にわたる継続的な活動を推奨するとともに、避難所運営等に不可欠な女性の視点を取り入れるために積極的な女性の参画を促し、災害時に実効性のある対応ができる実務的な組織体制となるよう、改善を求めていく。</p> <p>③地域防災コーディネーターについては、女性の視点を積極的に取り入れるとともに、各地区に確実に配置され、平時からの声掛けや有事の避難誘導が機能するよう、計画的な養成と体制整備を求めていく。</p>

No	テーマ	処理担当委員会
4	人口減少と施設の見直し 市営住宅の今後の在り方	経済建設委員会
市民から出された意見		
<p>【若宮区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者・子育て向け住宅ということで入居したが、子どもが遊ぶスペースがない。(通りを渡った先に小さな公園) ・防犯面での不安(不審者、消えたままの防犯灯、空室になったままの住宅など) ・外国人住民の方とのコミュニケーションの難しさがある。文化の違いもあるが、いろいろな人がいて、歩いていても楽しい <p>【大萱区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事が止まっているまま様子がわからない。 ・集会所などの施設の老朽化 ・市営住宅が取り壊された後はどうなるのか。 		
過去の回答状況		
<p>R7.6 議会 一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ等について早急に対応していく。 ・外国人の市民の皆さんも地域の一員として安心して生活や就労ができるよう支えていきたい。 ・市民と外国人市民が生活様式や文化などへ相互理解を深める取り組みをしっかりとやっていく。 ・ゆくゆくは避難場所を兼ねた公園を整備していく予定 <p>R6.3 議会 一般質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大萱団地の建て替えは県との共同建て替え事業。令和9年度以降でなければ、既存住宅がすべて除却できない状況。単なる建て売り住宅用の敷地として提供するのはもったいないので、知の拠点となるような産業適地として活用していきたい。 		
委員会での解釈、検討結果		
<p>【住環境の整備に関すること】</p> <p>① 若宮区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に遊べる広場の整備を早期に進めてほしい。 ・安心かつ安全な生活が送れるように現状に適した防犯灯設置やセキュリティ対策の実施 ・若宮団地は外国籍の方が多いため、地域とのコミュニケーションづくりについて(特に言葉の壁など)市としてしっかり関わってほしい。 <p>② 大萱区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の事業が停止しているようなので現状について説明してあげてほしい。 		

【跡地利用】

① 若宮区

- ・市営住宅の計画が住民にしっかり示されていないので区との情報共有が不足している。区に対して、今後の進め方を含めた計画等きちんと情報共有していただきたい。

②大萱区

- ・市営住宅の取り壊し後は、分譲住宅化による人口流入、地域活性化を期待し、分譲してほしい。
- ・跡地利用を住宅分譲とする際には「住まいる補助金」制度等の周知と活用促進を徹底してほしい。

現状・市の対応 （ 管理課 ・ 地域創造課 ）

《管理課》

若宮団地と大萱団地は、平成 29 年 3 月に長野県と協定を結び、協働建替を行っています。

【若宮団地】

若宮団地は、建物の老朽化が進み建て替えが必要となっていたため、住宅の建替を行い団地の集約化を進めています。集約化により生じる余剰地は民間活力を導入し、分譲地、道路、公園などが整備されるよう検討しています。

防犯対策としては、不審者など犯罪に繋がるような事案については警察と連携して対応していきます。また、子ども世帯が多く入居する住宅には、防犯カメラと立入禁止看板を設置しています。防犯灯は、若宮区で設置・維持管理されていますので、団地の整備計画を改めて若宮区にお示しをして、今後の維持管理についてご検討いただきたいと思います。

今後の若宮団地の整備計画や整備方法などについては、地元区と意見交換を行いながら進めていきます。

【大萱団地】

大萱団地は、市営住宅を除却し、新たに県営住宅を建設しています。更地となる市営住宅の跡地は、企業等が立地する産業用地として活用していきたいと考えています。

県営住宅において除却工事が中断している状況や、集会施設の建設につきましては、本年 6 月に地元区へ経過を含め状況をお伝えしています。今後も長野県より新たな情報が入れば地元区へお繋ぎしていきたいと考えています。

《地域創造課》

【住環境の整備に関すること】

- ①伊那市は、昨年度、長野県より「多文化共生モデル地域」の指定を受け、集落支援員を中心に「伊那市を知ろう」をテーマに、地域生活に密着した実用的な内容を含む、やさしい日本語教室を実施しています。今後も、市民と外国人市民が生活様式や文化などへの相互理解を深める取り組みを進め、多文化共生の実現を目指してまいります。

【跡地利用】

②いな住まいる補助金は、今年度で終了となりますが、次年度以降の継続については現在協議を進めております。

継続となれば、宅地分譲については事業者に、また住宅取得（新築・建売）については住民に制度等の周知と活用促進の徹底を図ってまいります。

市議会としての考え・対応

- ・若宮区から防犯対策の要望を受け、令和7年6月議会の一般質問において、市に対し早期の対策実施を求めました。
- ・「住環境の整備に関すること」及び「跡地利用」については、経済建設委員会所管事務調査として調査・研究を行い、R7.12に同委員会より市に提言書を提出しました。

No	テーマ	処理担当委員会
5	有機米のこれから	経済建設委員会
生産者から出された意見		
<p>学校給食への有機米提供の生産者の仲間を増やしていきたいが、なかなかそこに取り組んでもらえるような生産者がいない。</p>		
過去の回答状況		
<p>R7年6月議会 一般質問</p> <p>有機米を作ってください農家、分けていただけるような農家を確保しながら学校給食への有機米提供をやっていかねばいけないのにわかには増やすということまではいけませんが、できる限り全部の学校給食に提供できるような考えである。</p> <p>有機栽培農家の収量の安定化と品質の向上のために技術講習会を開催するとともに雑草対策としての自動抑草ロボットの貸し出し支援もしていく。</p>		
委員会での解釈、検討結果		
<ul style="list-style-type: none"> ・有機米の生産者をどのように増やしていくか 稲づくり講習会などの生産者の希望するような講習や、フォロー体制などをしっかりと作っていただく。 ・市独自の補助金などについても検討していく。 		
現状・市の対応（農政課）		
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、有機栽培の技術習得を目的とした有機稲作講習会を8回開催し、有機米の生産者や、これから取り組んでみたい農家への支援を進めています。 ・市独自の生産者向け補助制度については、来年度予算において、有機栽培に取り組む生産者を支援できるよう、制度設計を検討しているところです。 ・講習会を通じた人材育成の充実、技術の強化、補助制度による負担軽減等を組み合わせ、有機米生産者の確保・育成を継続して推進していく考えです。 		
市議会としての考え・対応		
<p>学校給食における有機米の提供を段階的に拡大していきたいという市の意向がある一方で、生産者の確保が難しいという現状があります。今後いかにして学校給食向け有機米の生産者として取り組んでいただける環境を整えていくかが重要であり、議会としてもその取組をバックアップしていきたいと考えます。</p> <p>併せて認証制度など、生産者の努力や取組が適正に買い取り価格へ反映されるよう、有機米のブランド化についても市には主体的かつ継続的に取り組んでいただきたいと考えます。</p>		

3 各会場参加者から出された意見

①地区、会場別意見交換会

開催日	会場	テーマ
令和7年 7月3日(木)	東春近公民館 (春近郷ふれ愛館)	・自治会のあり方 ・防災対策
<p>○自治会のあり方</p> <p><u>1 成り手不足の主な原因</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量や負担（区長の仕事量が多すぎる、現役世代は仕事との両立が厳しい、など） ・社会構造の変化（高齢化や後継ぎの不在、アパート住人が区に入っていない、など） ・モチベーションの低下（行事に参加する住民が少ない、役員をまったくやらない人がいる、など） <p><u>2 役員選出方法と仕事の軽減策（各区の試み）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選考委員会の設置、3役での選考（前年度の常会長や現役員が選考委員になる、など） ・輪番制・年齢制、スライド方式（「次は自分に来る」と分かりやすい。） ・事務職の配置（区長の仕事量軽減と、パソコン操作の補助として、配置） ・コーディネーターの配置（外部の専門家のサポートを得る。） ・仕事の分散（区長会長の仕事（公民館、学校の事など）を分散） <p><u>3 今後の解決に向けた主な提案</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保・育成（女性をもっと役員に入れるべき） ・若い世代や移住者を「一緒にやりましょう」と巻き込み、仲間作りをする。 ・中学生、高校生など若い年代が地域活動に携わり、大人の中で育つ機会を作る。 <p>○防災対策</p> <p><u>1 共通する懸念・リスク</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震への警戒（伊那市は南信トラフ地震防災対策推進地域指定市町村の範囲であり、能登半島地震の1.5倍規模（4mの水位など）を想定し、備えるべき） ・河川氾濫の不安（三峰川、霞堤、三峰の里周辺の浸水被害への不安） ・タイムライン作成の必要性（三峰川被害の想定、国土交通省のタイムラインができていない。） ・地盤の脆弱性（能登地震では地盤が砂地、家屋・神社の屋根瓦の被害があり、伊那市でも懸念） <p><u>2 現在の取り組みと残る課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、ワークショップ・イベントを実施。（形だけの訓練で終わらず、自助の意識向上と地域での相互理解、知っている人を増やす必要がある。） ・支え合いマップの作成（避難所の運営方法のひな形がなく、具体的な運営が分からない。） ・交通網の確保（地震時の交通整理や渋滞対策、物資が届くまでの時間稼ぎ（自助）が重要） <p><u>3 今後の対策に関する具体的な提案</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインの共有（三峰川が浸水した場合の状況確認、など） ・避難時シミュレーションの実施（誰が交通整理をするのか、自分で歩けない人はどうするか。） ・組織への女性の参画（防災組織に女性達の団体を入れる。） ・意識改革・自助の推進（文化祭などのイベントに防災のミニ講座を入れ、防災力を付ける。） ・災害後の課題への備え（災害ゴミの集積場所や運搬、処理方法を決めておく。） 		

開催日	会場	テーマ
令和7年 7月4日(金)	伊那公民館	第1部 楽しく！脳トレレクリエーション 第2部 認知症おしゃべりカフェ
<p><u>1. 認知症家族支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症者が利用できる宅老所の増設をしてほしい。 ・温泉施設の家族風呂が使えるチケットや割引支援があると助かる。 ・認知症者と家族と一緒に食事ができる場所がほしい。 ・障がい者トイレがない場合、女性であっても男子用を使用（介助者男性）している。 ・在宅介護支援が少ない。多くして福祉のまちづくりの推進を希望する。 <p><u>2. 認知症予防</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館活動で麻雀に参加、世間話をしながら脳トレにとっても良い。 ・歌を唄うのは認知症予防に効果がある。 ・天候にもよるが、農作業をすることも認知症予防になる。 ・日常の生活に変化をつけることが大事である。 <p><u>3. その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護六法をピックアップする必要がある。 ・今は少子化で子どもに目を向けており、高齢者に目が向いていない。 ・介護7年目になるが、長距離の遠出は無理である。 ・施設入所と在宅介護の違い、施設では強い薬を使うので寿命が縮まると思う。 <p><u>4. 開催方法について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こういう形での意見交換会でしたら、毎月やってほしい。 ・参加者が少ないのは広報不足なのではないか。 ・市内にはいろいろなグループや趣味の団体などあると思うので、そういう所に意見交換会開催の周知をしたらいいと思う。 		

開催日	会場	テーマ
令和7年 7月10日(木)	高遠町総合支所	・自治会のあり方 ・防災対策
<p>○自治体のあり方</p> <p><u>1 役員の成り手不足と高齢化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の深刻化（一人暮らしの高齢者が増加し役員決めが困難、草刈りなどの作業も困難） ・若い人は、地元に残らない、地区に入らない、会議に出てこない。 ・役の掛け持ちや重複が常態化、民生委員などの成り手不足が深刻、選考に苦勞。 ・自治会の解散を検討する話が出ている（既に鉾持は解散）。 <p><u>2 役員選出と組織に関する意見・提案</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・役職や組織の簡素化、仕事の分散・軽減する必要がある。 ・クォーター制を導入するなど、女性役員を確保したらどうか。 ・高齢者を区の役から外す考えもある。 ・町内での合併（統合）を進めていくべき時期である。 		

3 移住者・地域コミュニティに関する意見

- ・移住者にも役員を回さざるを得ない状況。移住者に高齢者が多く活動への参加を期待ができない。
- ・移住にあたり、市から条件として、町内規約を守るよう指導してほしい。

4 デジタル化、集金について

- ・タブレットを配布し、市からの回覧をデジタル化したり、引継ぎ文書をデータ保存したりすべき
- ・JAや安協、募金などの集金業務をどうにかしてほしい。
- ・有害鳥獣対策（電柵の管理など）が役員の負担になっている。

○防災対策

1 避難場所と避難ルートの安全性

- ・高遠小学校、やますそなどの避難場所まで数キロあり、安全に避難できるか不安
- ・藤沢地区などハザードマップで見ると、地区の避難所が土砂災害警戒地域にあるなど、安全な場所が一つもない。孤立集落となることを想定した訓練も必要
- ・三峰川など河川を越える避難場所は課題が多く、見直しする必要がある。
- ・六道井の土砂崩れの安全性確保が必要

2 避難時の要支援者への対応

- ・高齢者や障害者など、どう避難させるか、手助けできるか不安
- ・安全な空き家を一時的な避難場所として活用できないか。

3 組織・行政連携・住民意識

- ・防災への関心が薄い住民が多い。市から語りかけ、講習会をどんどん行うべき
- ・行政は「助けません宣言」をして、住民の自助を促してほしい。
- ・区や町内役員がすぐ変わるため、防災対策が継続できない。
- ・専任職員や危機管理課職員が区の防災に関わってほしい。
- ・防災コーディネーターの資格者がいるにも関わらず、区から声がかからない。
- ・食料は市が3日分用意していると聞いているが、地元でも用意したい。

開催日	会場	テーマ
令和7年7月26日（土）	防災コミュニティセンター	第1部 認知症を知ろう！（座学）・脳トレ体操 第2部 認知症おしゃべりカフェ

1. 認知症予防について

- ・「シルバーリハビリ講座」に参加すると良いと思う。参加してもらうことが大切なので参加者の送迎に取り組んでいる。
- ・地域で色々な話をする機会があると良い。
- ・人と会い、おしゃべりをするのが予防につながる。
- ・誰もが認知症になることを学び知ることが大切

課題

- ・地域行事や様々な集まり（講座・体操など）があっても出てこない。
- ・出席の呼びかけをしても男性の参加が少ない。

2. 地域コミュニティについて

- 地域で男性が気軽に参加できる「料理教室」など、失敗も許される楽しむ機会をつくると良い。
- 地域での飲み会は一定の役割を果たす。若い世代（特に20代）の参加が少ない傾向なので、飲み会以外の集える仕組みが必要
- 地域に気の合う仲間が集える場所、趣味や興味のある内容などができる場所が家から歩いて行ける所にあつて、いつでも好きな時に自ら選んで行ける場所があると良い。地域環境づくり、仕組みづくりが必要
- 若い世代は強制ではなく、文化や歴史を学びながら地域とのつながりを持つことが望ましい。
- 地域で認知症を身近なこととして自然に語れる雰囲気が大切
- 日影区では要支援者一人ひとりを誰がケアするか決めており、ごみ出しも有料で依頼できるなど、気兼ねなく助け合える仕組みがある。
- 「あの人が最近見かけない」と地域で声をかけ合える関係づくりが大切

3. 認知症家族との関りについて

- 認知症の本人は家族に迷惑をかけたくない気持ちが強く、不安を抱えていることも多い。
- 家族は心配と不安から冷静に接するのが難しい。
- 関わり方や言葉がけを学ぶ機会が必要。認知症に関する意識・認識
- 家族は第三者との会話によって冷静に考えられる場合がある。保健師や理学療法士など専門職の医学的知見や行動療法を加えると、更に理解と納得が深まる。
- 年齢とともに身体も認知も衰えるが、互いに認識し合うことが重要
- 認知症本人は元気だった姿と比較し認知症を受け入れにくい場合があるので、強く言って相手を傷つけることもある。家族からの言葉は特に影響が大きい。

②分野別意見交換会

開催日	会場	テーマ
令和7年5月24日（土）	若宮区公民館	・人口減少と施設の見直し 市営住宅の今後の在り方
<p>【子どもの遊び場などに関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に遊べる公園やスペースがほしい。 ・現状は駐車場で遊んでおり危険 ・フェンスで駐車場と仕切ると安心 ・今の砂利スペースを一時的にでも遊び場に活用してほしい。 ・遊具（滑り台・ブランコなど）があった方がよい。 ・自転車や三輪車で遊べる広い場所がほしい。 ・ボール遊びもできるようにしてほしい。 ・近くの既存公園は交差点を通らないといけず安全面に不安 ・南側の広い草地を公園や遊び場として整備してほしい。 ・市営住宅の「子育て向け住宅」なのに周辺に整備された子どもの遊び場がないのは問題 <ul style="list-style-type: none"> ・公園整備の順序が遅く、住宅完成後に整備では遅すぎるのでは。 <p>【住環境に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来客用駐車スペースがなく、路上駐車が常態化しているので設置してほしい。 ・宅地分譲予定なら今後さらに子育て世帯が増えるため、公園など子どもの遊び場が必要 ・上段に徒歩で行けるスーパーマーケットがほしい。 ・高齢者や車を持たない人の買い物が困難 ・小規模でも良いので近くに店舗があると便利 ・防災公園を整備してほしい。 ・高齢者一人暮らし世帯が多い。 ・災害時に使えるトイレ（マンホールトイレなど）や炊事ができる設備があると安心 ・高齢者でも簡単に使えるトイレが必要 ・南側駐車場が暗く、街灯設置の要望があったが、アンケート結果により却下された。 ・防犯灯のLED化を行いたい、市の計画がどうなるかわからないので、できないでいる。 <p>【防犯・治安の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターや共用部分などにたばこの吸い殻などがあったことがある。 ・外部者と思われる不審者が深夜に侵入していることなどがあった。過去にも市営住宅のだれも住んでいないところに不審者が入り込む事例があった。 ・市営住宅の空き家管理が不十分（垣根が伸び放題、虫の発生など） 		

【周辺環境に関する意見】

- ・横断歩道で車が止まらない。夜は見えづらい（街灯不足）。
- ・特に若宮集会所側は街灯がなく危険。防犯上の不安もある。
- ・伊那北小学校通学路の安全対策が不十分
- ・設置されていたオレンジポールが壊れたまま修理されていない。
- ・車の通行量が多く、通勤時間帯と通学時間帯が重なり危険
- ・車のスピードが落ちない。
- ・制限速度がなく実質 60km まで出せる状態
- ・「ゾーン 30」など速度規制をかけてほしい。
- ・スピードを落とすための道路構造（デバイス・段差など）を導入してほしい。
- ・子どもの傘が車に接触する危険があるので、歩行空間を守る安全対策が必要
- ・住宅街を抜け道として利用する車が増加していて危険
- ・歩者分離の信号がわかりにくく危ない場面があった。

【外国人住民との共生の課題】

- ・外国人住民とのコミュニケーションの壁
- ・ゴミの分別ルールがなかなか守られない。
- ・文化の違いによる生活習慣の違い（夏に外に出て話す）
- ・避難所情報や防災対応の周知が足りていない。
- ・PTA や地区役員などの外国人参加が進まない。
- ・ポルトガル語翻訳の難しさ（ブラジルも地域が広く、全員に伝わるわけでない）
- ・いろんな人が生活していて、区内を歩いても楽しい。日本の先端かも。

【行政との連携】

- ・整備や建設に関して市からの計画説明がない（青写真の提示など）。
- ・市営住宅の跡地の今後の分譲に関しての情報がなくわからない。
- ・空き家の解体の時期がわからない。
- ・長野県住宅供給公社の対応が横柄で不親切
- ・伊那市の管理課はとてもよく対応してくれている。
- ・地域でもこういう将来像がいいなど、意見交換して作っていきたい。
- ・市でもそういう話を聴いてもらう機会を作してほしい。

開催日	会場	テーマ
令和7年5月31日(土)	大萱区公民館	人口減少と施設の見直し 市営住宅の今後の在り方

【公民館・集会所の老朽化と代替え施設の確保】

- ・7組の公民館が老朽化しており、建て替えは高齢化や人口減少で困難。維持が厳しいため、代わりとなる利用場所が必要
- ・新しい施設(inadanisees)を常会や組で利用できるようにしてほしい。
- ・inadaniseesの利用時間が18時まででは、常会(19時以降)に活用できず意味がないため、夜間利用を可能にしてほしい。
- ・市営住宅や県営住宅の中に集会所を設け、地域の組が利用できるようにしてほしい。
- ・inadaniseesや新設集会所は「管理の問題」を解決できる運営方法(例:安価な夜間管理人の雇用)を導入してほしい。
- ・新しく建てる3棟目の市営住宅では、7組・8組・2組などが共同利用できる集会所の設置を検討してほしい。
- ・集会所などは防災時の避難場所にも活用できるようにしてほしい。

【 inadanisees に関する意見】

- ・地元住民に施設の存在や利用方法が十分周知されていない。
- ・地元の人でも積極的に活用できる「存在意義のある施設」にしてほしい。
- ・地元産直売所や高校生の夜間学習スペースなど、地域に開かれた活用をしてほしい。
- ・利用時間短縮(~18時)により利用者減少につながっている。
- ・稼働率を上げる工夫や、どうすれば利用が増えるかを市に真剣に検討してほしい。
- ・利用頻度を理由に制限をかけるのではなく、事前予約制などで柔軟に対応すべき

【市営住宅・県営住宅・跡地利用に関する意見】

- ・市営住宅建て替え後の跡地利用について、戸建ての分譲を希望する。
- ・分譲住宅にすれば、人口減少地区や小規模組に新規住民を増やす可能性があり、地域活性化につながる。
- ・分譲する場合、新住民が自治会や常会に加入する仕組みを整えてほしい。
- ・分譲時に子どもが遊べる公園など公共スペースを設け、地域住民と新住民が交流しやすくしてほしい。
- ・新築者向けの補助金制度を活用し、入区を条件にして地域人口を増やすことを提案
- ・団地住民が自治会に参加しない傾向があり、活動への参加やゴミ出しマナー改善を市として促してほしい。
- ・アスベストの関係で解体が止まっている。どうなっているか。

【防災に関する意見】

- ・高齢者や一人暮らしが多く、避難所が遠い場合があるため、防災対応を強化してほしい。
- ・災害時に簡易設置できるマンホールトイレなどの導入を検討してほしい。
- ・県営・市営住宅や inadanisees を防災避難所として活用できるようにしてほしい。

- ・近隣にある南箕輪村の信大グラウンドを、緊急時に避難場所として相互利用できるよう協議してほしい。

【 コミュニティ・外国籍住民に関する意見 】

- ・団地住民と地域住民のつながりが希薄であり、交流や自治会参加を促す必要がある。
- ・団地と一緒に活動できないのは大きな問題だと感じていた。

開催日	会場	テーマ
令和7年7月3日（木）	市議会第1委員会室	有機米のこれから 対象：有機農業生産者、JA
<p><u>1. 有機米栽培における不安・課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣行栽培と比べて収量や品質の維持が難しい。 ・病害虫や雑草管理に関する技術や知識の不足 ・周囲への影響（隣接田の病害虫や雑草拡散など）への不安 ・草の管理が最大の課題。特に除草対策が技術的なハードル ・機械力による対応が重要だが、機械投資の負担が大きい。 ・慣行からの切り替えには土壌改良や管理技術の蓄積が必要 ・客土された田んぼや新しい圃場では草が出やすい。 <p><u>2. 安心して栽培するための支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入補償と技術支援が不可欠 ・圃場ごとの個別指導が理想だが、人員や対応体制に限界がある。 ・安定した販売先と価格（例：学校給食での継続的な使用）が最も安心材料 ・環境保全型直接支払交付金（10aあたり14,000円）は大きな支え ・伊那市の機械導入補助（15%）も助かっているが、補助率を30%程度に引き上げてほしい。 ・機械補助の申請は枠があると思うが事前申請。うまく活用している生産者も。 <p><u>3. 有機米の価格について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機栽培は手間とコストがかかるため、一定以上の価格保証が必要 ・有機JASや特別栽培などの認証制度の活用が販路拡大には必要 ・ただし、有機だからといって必ずしも高く売れるわけではないのが現状 <p><u>4. 実際の栽培経験・成功例と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・約5反歩の栽培で、技術を磨けば9俵程度の収穫も可能 ・品質は生産者それぞれになってきている。 ・今はインターネットで売っても大体売れる。 ・高騰しかけた、2月ぐらいにインターネット注文が殺到し、値上げしようかなと思う前に完売になってしまった。 ・草の発生を抑えるため、秋起こしや植代のやり方、水管理などが重要 ・インターネット販売で完売しており、有機のニーズは強く感じている。 ・約7町歩を家族経営で有機専業。規模的には限界を感じている。 		

- ・大規模農家に働きかけても、人員や投資面での不安が大きく、参入が難しい。
- ・田植えを6月中旬以降に遅らせることで除草負担を軽減
- ・田んぼによって草の出方は大きく異なり、圃場条件の影響も大きい。
- ・制度資金を活用して機械に頼る有機農業をやっている。
- ・担い手不足と後継者不足も深刻

5. 除草対策（栽培技術）

- ・秋起こしを早く行い、稲わらの分解（腐熟）を十分に進めることが重要
- ・水の管理を徹底して地表に草が出ないようにする。
- ・田植えを遅らせる（6月上旬～中旬）ことで除草剤に頼らない草抑制が可能
- ・伊那市が導入した自動抑草ロボットについては「効果はあるが、時期のタイミングが重要」

6. 地域差・圃場条件

- ・土壌の肥沃度や土質、病害虫の発生状況によって有機栽培の適性は異なる。
- ・客土や整備された田んぼでは草が出やすい傾向がある。
- ・自然農法に近いほど、圃場の条件差が収量や品質に与える影響が大きくなる。

7. 有機米は中山間地域の農業の可能性となるか

- ・現状では伊那市内での取組に統一性がなく、ブランド化や広域出荷に課題
- ・今後、市全体としての方針・基準づくりやブランド化が必要
- ・学校給食への有機米導入など、地域ぐるみの消費体制が取れば付加価値は高まる可能性がある。

8. 伊那市の学校給食の有機米の取り組みについて

- ・生産者側からすれば価格次第ですが安定した価格で安定した売り先があれば、楽に取り組めると思う。
- ・環境保全型直接支払い交付金制度はありがたい。

9. その他の意見・提案

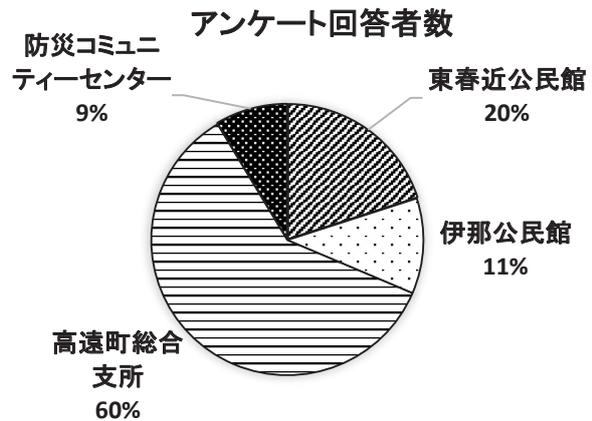
- ・伊那市の稲づくり講座はありがたい。ハイレベルな学習ができるいい取り組み
- ・信州の環境に優しい農産物認証制度や特別栽培米のガイドライン表示、有機 JAS 認証などなにかしらの基準を設けて取り組み、交渉していく必要があるのかな。
- ・慣行栽培のお米も価格変動が激しいが、慣行栽培の1.5倍くらいの金額で有機米を買い取ってくれると合うかなという感覚。取り組む人も増えるのかも。
- ・有機農業について真面目に取り組んでいるが、できるだけ地域で消費してもらいたいと思うし、ましてや学校で子どもたちに食べてもらいたいと思う。
- ・有機米は、このやり方で生きていくと決めた人じゃないと取り組めない。主婦の人が非常に熱心に取り組んでいる印象
- ・教育委員会と話をして、学校で有機米を自給自足するのはどうか。中学生が1年間米に取り組むとか。小学生の分も含めて。そんな伊那市になれば面白い。
- ・有機米ということでお米を学校給食に出して、子どもたちにとって環境的にもいかに身近に感じて理解してもらおうか。子どもたちを巻き込んで一緒に進めていくのは大切なことかも。

第9回 市民と議会との意見交換会アンケート集計表

意見交換会参加人数:40人
 アンケート回答人数:35人
 (回答率:88%)

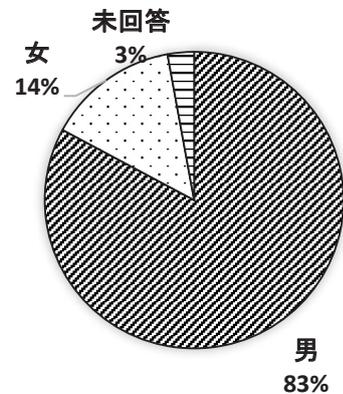
参加会場

参加会場	参加者数	参加者割合	回答者数	回答者割合	回答内割合
東春近公民館	7	18%	7	100%	20%
伊那公民館	7	18%	4	57%	11%
高遠町総合支所	23	58%	21	91%	60%
防災コミュニティーセンター	3	8%	3	100%	9%
	40	100%	35	88%	100%



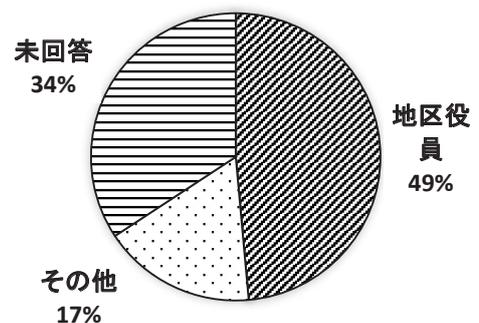
性別

性別	人数	割合
男	29	83%
女	5	14%
未回答	1	3%
	35	100%



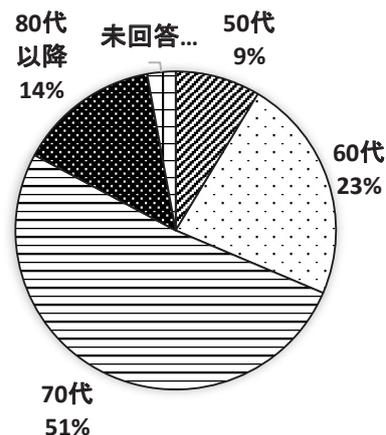
役職

役職	人数	割合
地区役員	17	49%
PTA役員	0	0%
保護者会役員	0	0%
その他	6	17%
未回答	12	34%
	35	100%



年齢

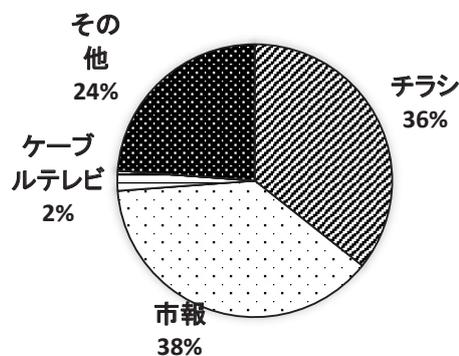
	人数	割合
10代	0	0%
20代	0	0%
30代	0	0%
40代	0	0%
50代	3	9%
60代	8	23%
70代	18	51%
80代以降	5	14%
未回答	1	3%
	35	100%



1 市民と議会との意見交換会について

(1)この意見交換会を何で知りましたか(複数回答有り)

	人数	割合
チラシ	15	36%
市報	16	38%
有線放送	0	0%
ケーブルテレビ	1	2%
Facebook	0	0%
Instagram	0	0%
LINE	0	0%
その他	10	24%
未回答	0	0%
	42	100%

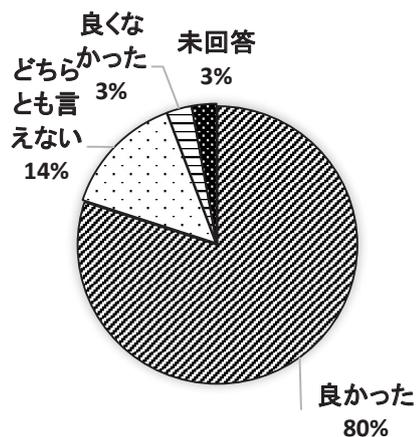


その他:

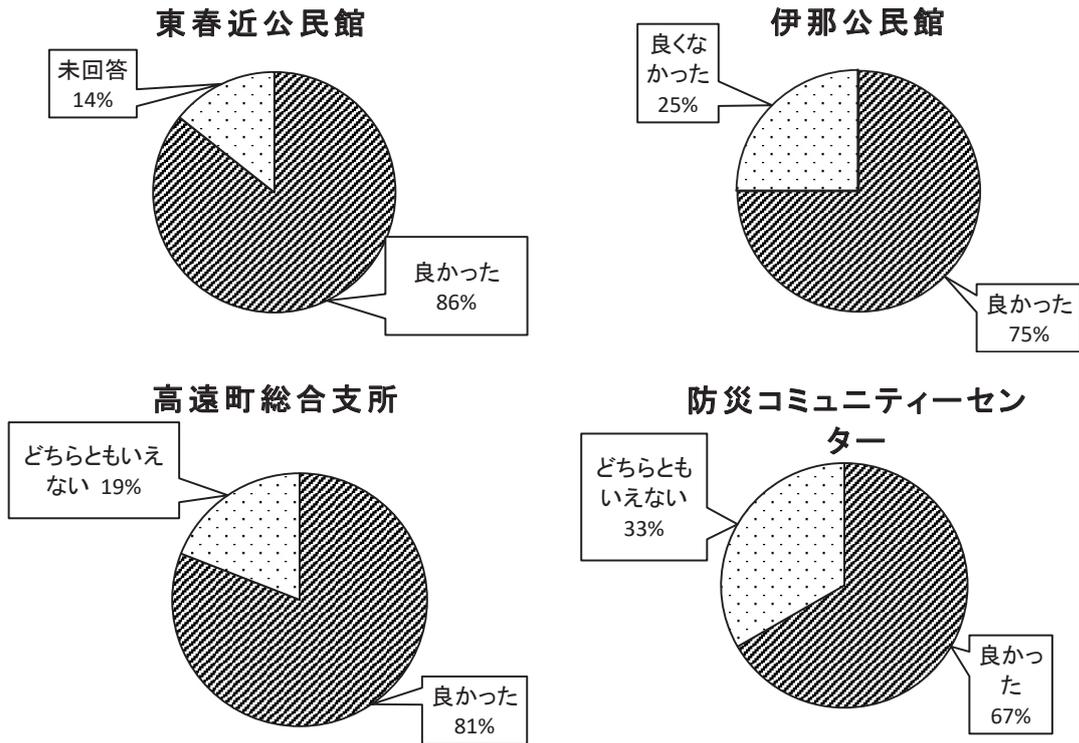
新聞記事、議員からの声かけ、事務局からの通知

(2)意見交換会の進め方について

	人数	割合
良かった	28	80%
どちらとも言えない	5	14%
良くなかった	1	3%
未回答	1	3%
	35	100%



<会場別>



東春近公民館

- ・ 具体的なお話が多く、参考になりました。
- ・ とにかく話げできた事。
- ・ 他地区の話聞く事ができた。
- ・ 進行が良かった。

伊那公民館

- ・ 喫茶は大変コミュニケーションが取れて良かったです。
- ・ 意見を言う時がなかった。司会者の進行方法に問題があった。

高遠町総合支所

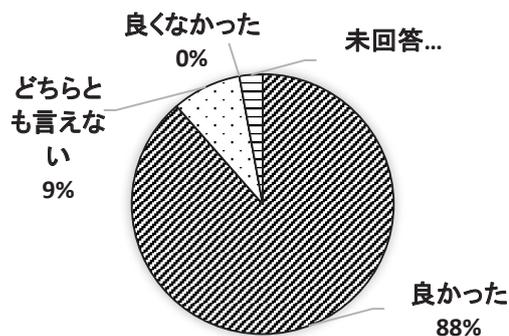
- ・ グループ分けが良かった。
- ・ グループ討議が良かった。
- ・ 他地区の現況が知り得た。
- ・ 他の地区の話が聞けた。
- ・ 他のグループの様子が分からない。
- ・ 進め方が良く、分かりやすい。
- ・ 皆同じ問題に悩んでいると思った。
- ・ 各地区の問題点を聞いて同じ悩みを感じることができた。
- ・ 地図の呈示など、目に見える化される資料提供があったこと。
- ・ テーマを絞ったこと、多くの意見が聞けた。
- ・ 自治会と防災はどちらも重要課題です。
- ・ いろんな意見が聞けた。
- ・ 短時間の中、まとめていただいた。
- ・ 市議が進行する進め方は良かった。

防災コミュニティーセンター

- ・ 改めて認知症が分かりました。

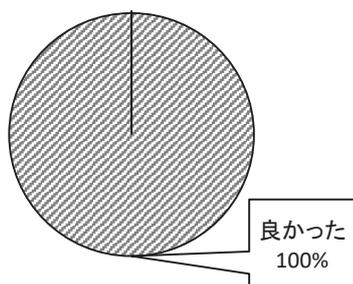
(3)意見交換会のテーマ・内容について

	人数	割合
良かった	31	88%
どちらとも言えない	3	8%
良くなかった	0	0%
未回答	1	3%
	35	99%

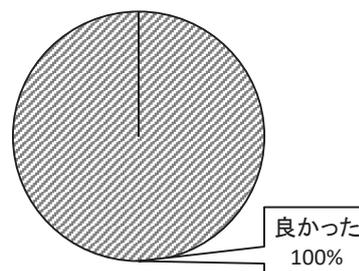


<会場別>

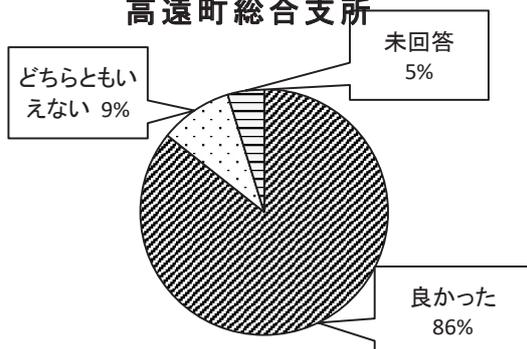
東春近公民館



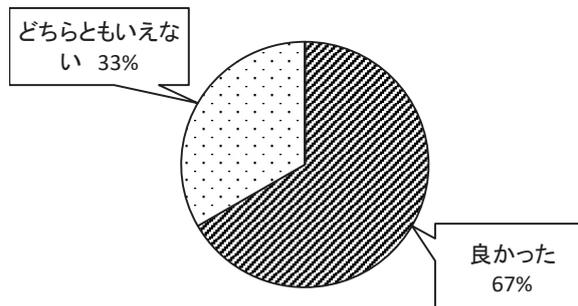
伊那公民館



高遠町総合支所



防災コミュニティーセンター



- 東春近公民館
- ・各地区の様子を知ることができました。
 - ・地区での最大の課題です。
 - ・良かったが、もう少し話をしたかった。
 - ・防災というテーマだったので良かった。
 - ・他地区の事がわかる様になった。

- 伊那公民館
- ・脳トレ的なレクリエーションの指導は良かったです。
 - ・身近なテーマであった。

- 高遠町総合支所
- ・現状の問題が当地区だけでない。どうしたら今後いいのかは答えがみえない。
 - ・自地区以外の様子が分かった。
 - ・テーマが良かった。
 - ・地域によっていろいろな問題があった。
 - ・災害対策を取り上げたのが良かった。
 - ・自治会と災害は高遠の大きな課題です。
 - ・地区の実情、工夫の仕方も教えてもらった。
 - ・高遠の状況を踏まえたテーマだった。

- 防災コミュニティーセンター
- ・いろんな人の話が聞けました。

(3) 意見交換会のテーマ・内容について
7月4日 第1部 脳トレレクリエーションについて

	人数	割合
良かった	3	75%
どちらとも言えない	0	0%
良くなかった	0	0%
未回答	1	25%
	4	100%

・会がなごやかになった。

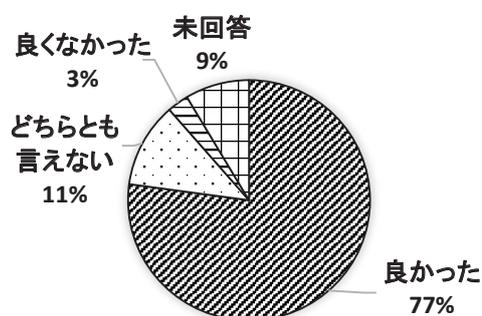
7月26日 第1部 認知症座学・脳トレ体操について

	人数	割合
良かった	3	100%
どちらとも言えない	0	0%
良くなかった	0	0%
未回答	0	0%
	3	100%

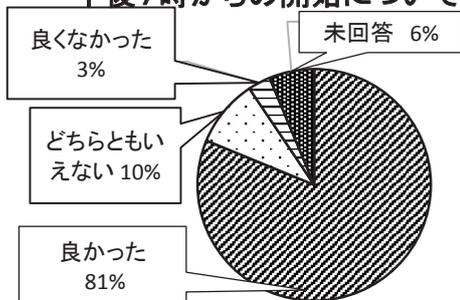
・楽しかったです。

(4) 意見交換会の開始時刻について

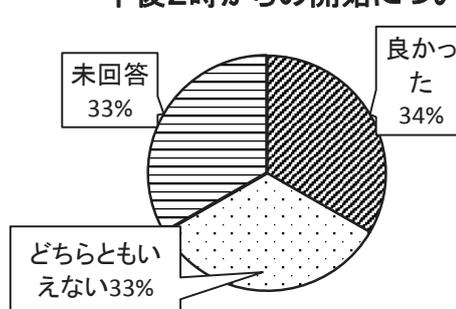
	人数	割合
良かった	27	77%
どちらとも言えない	4	11%
良くなかった	1	3%
未回答	3	9%
	35	100%



午後7時からの開始について



午後2時からの開始について

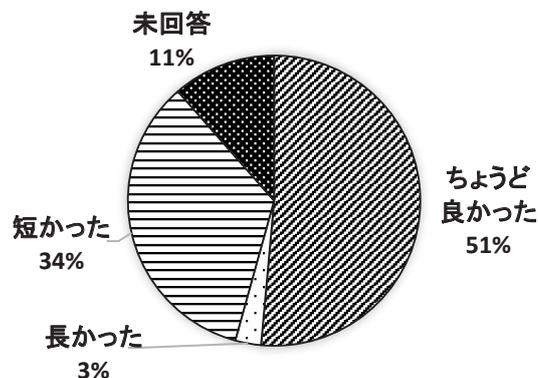


・ 6時30分。
・ もう少し早くても良いと思います。

・ 午前中
・ 土曜日で休日の人か、午後2時からはどうか？

(5) 意見交換会の話合いの時間について

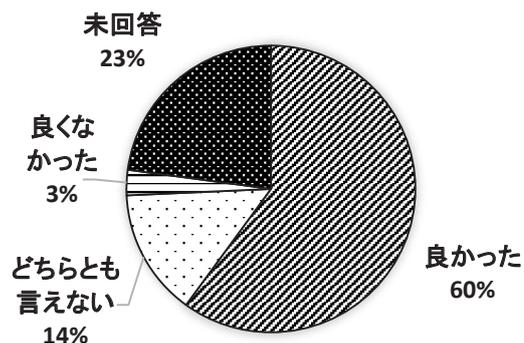
	人数	割合
ちょうど良かった	18	51%
長かった	1	3%
短かった	12	34%
未回答	4	11%
	35	100%



(6) 意見交換会の開催時期について

	人数	割合
良かった	21	60%
どちらとも言えない	5	14%
良くなかった	1	3%
未回答	8	23%
	35	100%

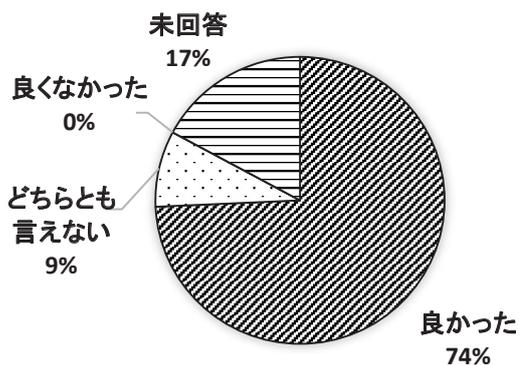
・暑くないときがよいです。



(7) 意見交換会の開催場所について

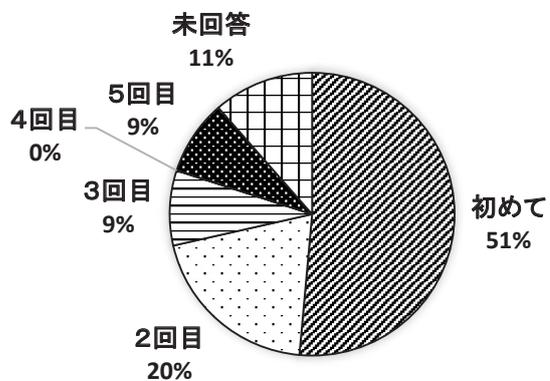
	人数	割合
良かった	26	74%
どちらとも言えない	3	9%
良くなかった	0	0%
未回答	6	17%
	35	100%

・高遠新庁舎が利用出来たのは良かった。



(8) 市民と議会との意見交換会に参加するのは今回で何回目ですか。

	人数	割合
初めて	18	51%
2回目	7	20%
3回目	3	9%
4回目	0	0%
5回目	3	9%
未回答	4	11%
	35	100%



2. 意見交換会に望むこと、開催、運営方法等についてのご意見

東春近公民館 ・少人数だったので逆にいろいろと意見を聞くことができたんだと思う。

伊那公民館 ・多くの市民の方に出席していただき良かった。
・出席者が話し出せる様気を配ってほしい。1人の意見が長すぎた。

高遠町総合支所 ・開催会場を高遠の場合3ヶ所位にした方が多くの人が出る。(高遠、長藤、藤沢、河南)
・1つのテーマでしっかり意見交換をしたい。
・地元(高遠)選出議員の交換会のテーマに対する考えも聴きたか
・良い事なので、今後もやってほしい。
・話し合う時間を長くしてほしい。
・テーマを多くしていただきたい。
・いろいろ勉強になりました。ありがとうございます。

3. その他ご意見

東春近公民館 ・ゴミの問題は他人事ではない。

伊那公民館 ・今回、地区ふくしの会役員・民生委員等の参加がなかったのはものたりなく思った。

高遠町総合支所 ・他地区の方々と話しができてとても参考になった。
・1時間弱の時間では十分な話し合いができないのもう少し時間があると良い。
・ありがとうございました。

**この報告書は伊那市議会ホームページでも
公開しています。**

伊那市公式ホームページ>伊那市議会>
会議の傍聴・広報・広聴>市民との意見交換会



**令和8年2月
伊那市議会事務局
TEL.0265-96-8149
e-mail:gkj@inacity.jp**

